

MBT NEWS LETTER

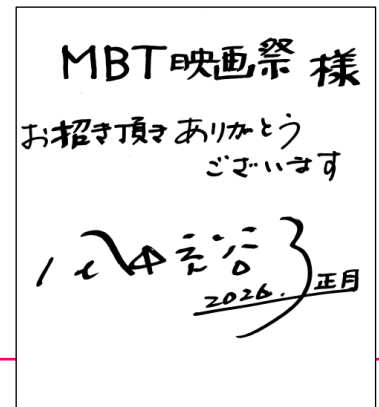
第383号
'26/01/30

1/17“第5回MBTみんなで守るいのちの映画祭” 特別上映『火火』の主演女優：田中裕子さんから 舞台挨拶でエールを送っていただきました！

・難病克服キャンペーンの趣旨をご理解いただき、特別ゲストとして第3回は吉永小百合さん、第4回は渡辺謙さんをお招きしたのに続き、第5回は**田中裕子さん**にお出でいただきました。



- ・信楽の女性陶芸家の先駆者でもあり、陶芸の道に進むも白血病を発症した息子の命を救うため奔走した陶芸家の半生を映画化した「火火」の上映に先立ち、主演を務めた田中裕子様に舞台挨拶をいただきました。
- ・挨拶内容は以下の様です。



- ・本日はMBT映画祭にお招きいただきありがとうございます。
- ・受賞された皆様、おめでとうございます。
- ・本日は、2004年に撮影を始め2005年に上映された女性陶芸家神山清子（こうやまきよこ）さんの半生を描いた作品「火火」が上映されるということで、そのお話を少しさせていただきます。
- ・この映画は監督の高橋伴明（たかはしばんめい）さんが脚本も書いたものです。伴明さんは、直前にお母様を亡くし、お母様への想いを重ねて脚本を書いたとお聞きしています。お母様は何かあったら“じゃ歌っちゃおうか”という方で、そのようなシーンも映画の中にあります。
- ・伴明さんは、映画を作る中でいろんなことが起こりますが、誰も何も見捨てず力強く傍にいてくださる方です。
- ・この作品で受賞できたことはとても嬉しかったです。
- ・神山先生は力強い方で女性陶芸家の道を開きましたが長男賢一さんを白血病で亡くし、その後骨髓バンク創設に尽力なさいました。先生の自宅に大きな窯のある信楽の広い空間で私は撮影させていただきました。
- ・ある日小さな骨壺を見せてくれました。ご自分で焼いた小さな骨壺で、その中に賢一さんのお骨が入っていて死んでもいつも支えて助けてもらっているとおっしゃっておられました。
- ・撮影が終わりに近づいたときに“何か作ってあげる”と言われたので花瓶と骨壺を作って欲しいといいました。薄い緑色に青色と信楽の茶色も少し混ざった色です。その花瓶にお正月にお花を活けてお水を変えるときに、花瓶の底を持つとそこに彫ってあるひらがなの「き」（清子のき）の字に指が触れますが、そのたびに先生に元気をもらっている気がしています。
- ・今日はこの後に「火火」を皆様に観ていただけると思うと嬉しく、ありがとうございます。

発行

（一般社団法人）MBTコンソーシアム、（公立大学法人）奈良県立医科大学

奈良県橿原市四条町840番地研究推進課内 担当 塩山

TEL：0744-29-8853（直通）、FAX：050-3164-5598、Email：mbt@mbt.or.jp